

【議事概要】

件名	第6回 健康くさつ21計画推進会議
日時	平成24年12月3日(月) 13:30~15:40
場所	草津市立さわやか保健センター視聴覚室
出席者	委員 (敬称略) 今居、北村、北脇、佐野、角、田川、竹田、竹屋、築田、長谷川、西村、福山、堀井(13名/20名)
	事務局 田中みどり、田中三男、藪田、田中優佳、岩崎、黒川、井上

(失礼ながら、お名前については、苗字のみとさせていただきます。)

1. 委員長あいさつ

- ・楽しく、活発な協議をお願いします。
- ・第2次計画の案についての説明と本日の会議運営について事務局のほうでよろしく申し上げます。

2. 「第2次草津市健康増進計画」の骨子(案)について

(事務局)

資料1「第2次草津市健康増進計画」について説明

(A委員)

事務局から説明いただいたとおり、草津市においても国の5つの方向性を大事にし、同様に5つの方向性をもってすすめていくが、国の5つの方向性は①のように大きな目標のものから⑤のように今まで領域ごとにすすめてきたような内容のものまでが並べられているので、草津市においてわかりやすく図式化したということによろしかったでしょうか。

この5つの方向性にむけて国の手法と同様に、市レベルでの目標値をもち、やりっぱなしではなく、5年とか10年とかの単位で評価を行ってすすめていくということによろしかったでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(A委員)

本日われわれがする作業について再度説明いただきたい。

(事務局)

骨子(案)全般についての意見と5つの方向性にむけての目標の位置づけ等が適切かどうかの協議を2つのグループに分かれて協議いただきたい。

(委員長)

草津市において、国の方向性をわかりやすく図式化し、言葉も置き換えてくれているが、この内容に関してもグループ協議の中で協議いただきたい。

(事務局)

草津市の方向性の表現の仕方についても御意見をいただけるとありがたいです。

(委員)

了解(各グループ事務局から3名入っての協議)

3. グループ協議

「第2次草津市健康増進計画」の骨子(案)について2グループに分かれ協議を行った。

【A グループ】

今居、北村、北脇、竹田、竹屋、築田、長谷川、簗田、田中三男（司会）、田中優佳（書記）

《資料1 目標について》

「①年老いても元気・どんな人も健康的な草津市」について

- ・「どんな人も」という表現について、ほかに良い表現はないのだろうか？「誰もが」や「みんな」のほうがよいのではないか。
- ・「年老いても」という表現は率直で分かりやすいと思うがそれに比べ漠然とするかもしれないが、「いくつになっても」という表現のほうがいいのではないか？元気な年寄りになるために若いときから生き方、生活習慣が大事ということであるが、「年老いても」という表現には少し抵抗がある。
- ・健康でいられる寿命（健康寿命）をどこに位置づけるのかが重要。「健康寿命」「健康格差」をもう少し丁寧に説明が必要ではないか。専門知識のある人なら分かりやすいが、一般の人にはわかり難い。「みんな健康的」と言いたいけれど、さまざまな格差を「健康格差」に当てはめているので、それをわかりやすく表現するには難しい部分もあり、「どんな人も」という表現になったが、「健康格差を縮小します」でもいいのではないか。
- ・この計画をどこに出していくのか。専門的に話をする場であれば、国から出ているままの表現でよいし、市民に対して働きかけていく計画であれば表現も変わってくる。
- ・市民向けに発信したいという思いや市レベルの理解しやすい言葉に置き換えたことでニュアンスが変わったり、大事にしたい言葉が抜けることが心配。「健康寿命」という言葉が目標にあがってきてもいいと思うが、そうすると「健康格差」という言葉も挙げないわけにはいなくなり、難しい表現になってしまう。「どの人も」、「いくつになっても」といった表現が結局はよいように感じる。
- ・2ページ、3ページ、4ページの表現を統一したほうがよい。（例：維持・向上→つとめます）

「②生活習慣病発症予防と重症化予防の徹底」について

- ・計画に掲載すべきものであれば、糖尿病予防ガイドラインの推進、国保特定健診実施計画の推進が3ページの草津市総合計画の中にリンクするように記載しないとイケない。
- ・行政的な計画の性格をもっており、目標に向けて様々な課が目標の達成状況や計画の進捗状況についてチェックできるように考えて作成されていると考えた方がよい。

「③社会生活を営むための心身機能の維持・向上」について

- ・ゲートキーパーの増加を目標とするのであれば、ゲートキーパーとは何かを説明することも必要。
- ・ゲートキーパーを増やすという目標設定が難しいと思う（登録制でないので）ので、自殺対策の目標設定するのであれば、「相談できる窓口の増加」「相談の電話回線を増加させる」など実際に数値化できるもののほうがよいのではないか。
- ・認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上に対して、今の把握率をさらに上げていくということなのか、実施している生活機能評価の対象年齢を下げた把握率を上げるということなのか。
- ・数値化できるものが目標として上げられているのか、数値化できないものも含めて目標なので挙げているのか。目標の中には「地域とのつながりの強化」「高血圧の改善」等といった表現だけでは、評価は数値化が難しいので、「40～89歳までの収縮期血圧の平均値の低下」など、血糖コントロール不良者（HbA1cJSD値8.0%以上の者）の減少と同じように具体的に書かないといけない。
- ・『3の「社会生活を～・・・」のところ、自殺対策等しか入っていないことに対しては、違和感があり、このままいくなら丁寧な説明が必要であること。そうでないなら、構造図自体をもう少し

し変更した方がよいのでは・・・

「④健康づくりに取り組む人とチームを増やす」

- ・拠点が増える、地域が増えることが大事だが目標に挙げにくい、音頭にとって連携しないと難しい。
- ・連携そのもの自体が数値化されて目標に挙げられると良いが・・・。

全体として

- ・4ページ以降の①から⑤までの表示の仕方、順番、説明（例えば③社会生活を営むための心身機能の維持・向上は自殺対策強化事業の推進、認知症対策の推進をすれば網羅できるのかと誤認識してしまうので）を工夫しないと分かりにくい。

◎次回の会議では④、⑤について協議していく。

【B グループ】

佐野、角、田川、福山、堀井、西村、田中みどり、岩崎（司会）、黒川（書記）

《資料1 方向性について》

- ・3ページ目の方向性が図式されているものは、優先順位も分かりやすく、市民にとっても分かりやすいものになっている。
- ・滋賀県女性の健康寿命がワースト1位であった。しかし、算出方法にはアンケートによる主観的な部分もあるため、他府県との差や順位について考察することは有益ではない。（上位の都道府県との違いも比較・分析されていないもの）
- ・④の「健康づくりに取り組む人とチームを増やす」という方向性と目標では、人と人とのつながりのみに重点を置いているように感じる。⑤の各領域についても、「健康に関心がある人も関心がない人も草津市に住んでいるだけで健康になれるような社会環境の整備や環境づくり」としての視点が抜け落ちてしまわないようにすべき。

《資料2 目標について》

「① 年長いても元気・どんな人も健康的な草津市」について

- ・健康寿命の算出には計算式があるため、市として目標とすることは可能。
- ・目標として「健康格差の縮小」を掲げているが、比較対象をどうするのか明確にする必要がある。他の自治体との比較をするのか、市内学区ごとでの比較をするのか考えなければならないが、市としては学区ごとでの比較となるか。

まず「学区ごとの現状と特性を明らかにすること」が目標となってくるのではないか。それを明らかにすることで、地域における健康格差があるのかも明らかになる。

国の計画では、日常生活に制限のない期間の地域格差のみをもって健康格差としているが、それだけを健康格差としてよいのか。経済的格差もあるなかで、どれを意識するのか考えていき、市独自の目標を掲げていけたらよい。

「②生活習慣病発症予防と重症化予防の徹底」について

- ・がんの目標として「75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少」を掲げているが、年齢調整死亡率は市町単位での算出は、母数が少ないため適当ではない。「75歳未満のがんの死亡を減らす」ことを目標にしてデータとしては、標準化死亡比（SMR）のデータ活用を検討するとよい。

「③社会生活を営むための心身機能の維持・向上」について

- ・目標として「ゲートキーパーの増加」を掲げているが、ゲートキーパーとはどんなものであるのかの説明が必要。

「④健康づくりに取り組む人とチームを増やす」について

- ・目標として「地域のつながりの強化」を掲げているが、どのように評価するのか考える必要がある。
- ・「健康づくり」として、市内に多数あるボランティア団体や子育てサークル等の各種団体やPTAなどの家庭から市民が一丸となって取り組んでいき、健康の輪を大きく広げたい。家庭内でも、親に教えてもらった良い部分をつないでいけたらいいと思う。
- ・子育て世代としては、子どもの健康やダイエットへの興味はあるが、自分の健康は後回しであり、親同士で健康について話すこともない。

「⑤よりよい生活習慣で過ごす」について

- ・目標として「COPDの認知度向上」では分かりにくい。「COPDを知っている人を増やす」という表現ではどうか。

◎目標の評価方法や活用する指標、数値については、次回以降に協議を重ねていく。

4. その他

次回の協議は2月になります。本日、話しきれなかった部分につきましては、次回の会議の際、再度協議いただきたいと思います。よろしくお願いします。

5. 委員長あいさつ

難しい議題でしたが、色々な角度から有意義な御意見をいただけたと思います。事務局が今話されたように、事務局で本日の協議内容も受けて骨子や資料を見直していただき、次回の会議で今回話しきれなかった部分も含め協議できればと思います。本日はありがとうございました。